

農報

水稲



水稲営農情報



水稲

吉田 義文
指導販売部
0969-22-1105

収穫までの水管理 落水期の延長

米の登熟や品質向上を図るためには根の活力維持が大切です。そのためには、間断灌水による水管理と適期落水が大きく影響します。落水は収穫に支障のない限り遅らせてください。(収穫前5日～7日程度)

収穫・乾燥調整

収穫適期は籾黄化率が85%になった頃です。収穫が早いと青未熟、収穫が遅れると茶米等の発生要因となります。

刈り取り作業は、つゆがなくなった頃から始めるのが最も効率が高く、傷籾の発生も少なくなります。暑い時期の収穫作業ですので、生籾で長時間放置しますとムレ米が発生します。収穫後は速やかに通風乾燥を行ってください。高温乾燥は胴割れや碎米の要因となりますので、機種にあった温度設定で行いましょう。

かけ干しの場合は期間を3～4日とし、適正玄米水分15%～16%で早めに脱穀してください。

玄米仕上げ水分は15%を目標としてください。過乾燥や高水分は品質食味を落としますので充分注意してください。入念な調整作業を行い、整粒歩合(80%目標)を高めましょう。

早期水稲の出穂期以降の防除について(農薬の安全使用)

早期水稲は出穂期(圃場全体の5割が出穂した日)から約30日で収穫を迎えます。出穂期以降2回の本田防除をします。薬剤散布の際には、ラベルの表示事項を良く読んで(遵守)使用しましょう。

- 使用作物・適用病害虫
- 使用量及び希釈倍数
- 使用期限
- 総使用回数(使用する農薬の使用回数と含まれる成分使用回数)
※農薬散布の際には、飛散防止に心掛けて下さい。
できるだけ風のない日・時間を選んで。
圃場の縁では内側に向かって。

出穂期から穂揃い期(収穫前21日)

使用農薬 粉剤 ビームバシスタークル粉5DL 3kg/10a
液剤 ビームゾル 1000倍
バシタックゾル 1000倍
スタークル液10 1000倍(顆粒水溶は2000倍)

液剤タイプは使用する機材によって散布量が変わります。60～120リットル程度

穂揃い期以降(収穫前14日)

使用農薬 粉剤 キラップ粉DL 4kg/10a
液剤 キラップフロアブル1500倍

果樹



7月の柑橘園管理



果樹

山下 俊二
下島営農指導センター
080-1729-1632

7月に入りますと梅雨も明けて、夏がやってきます。今後乾燥しやすい園地では肥大や減酸促進させる為、かん水を行いましょ。

また、今月より摘果の重要な時期となります。暑い中の作業となりますが、肥大を良くする為にも早期に摘果作業に取り掛かり高品質果実生産を行いましょ。

1. 病虫害防除

6月にハーベストオイルを散布できなかった園地では、7月上旬までに散布を終えて下さい。希釈倍数は200倍での散布となります。また、夏芽の発生に伴いアブラムシ等の防除も必要となりますので、適期防除をお願いします。

対象品種	防除時期	対象病虫害	農薬名	希釈倍数	備考
温州中晩柑	上～中旬	黒点病	ジマンダイセン水和剤	600倍	混用散布
		アザミウマ類、ゴマダラカミキリ	モスピランSL液剤	4,000倍	
		ミカンハダニ	パロックフロアブル	2,000倍	
	発生時	ハマキムシ	オリオン水和剤40	1,000倍	
	発生時	カメムシ	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	
発生時	MR. ジョーカー水和剤		2,000倍	忌避効果もあり	

2. 施肥

栽培タイプ	施用時期	品種名	肥料名	10a当たり袋数
省力化タイプ	7月上旬	清見・河内晩柑・甘夏・パール柑・デコボン	アグリロング28号	6袋

3. 摘果の実施

○温州みかん…小玉果や病害虫果を中心に摘果を行って下さい。また、日焼けしやすい上向き果も摘果を行うようにしましょう。

○中晩柑…今月の中旬あたりをメドに粗摘果を行って下さい。

粗摘果では目標着果数の7～8割程度まで落とし、裾成り・内成を最初に落とします。その後赤道部と樹上部を落とします。この際、小玉果や傷果を落とすようにしましょ。

品種名	階級目安	7月10日	7月20日	8月1日
デコボン	2L	30ミリ	35ミリ	43ミリ
清見	2L	37ミリ	44ミリ	49ミリ
甘夏	2L	38ミリ	47ミリ	57ミリ
河内晩柑	L	45ミリ	55ミリ	59ミリ
パール柑	2L	57ミリ	67ミリ	75ミリ

4. 温州みかん品質向上対策

○タイベック被覆の実施

品質向上の為に、タイベック被覆を行いましょ。また、被覆後は定期的に果実分析を行い、品質に応じた水分管理を行いましょ。

品種名	被覆時期	品種名	被覆時期
肥のあかり・豊福・肥のさやか	6月下旬～7月上旬	南柑	7月中旬
肥のあけほの・早生	7月中旬	青島・金峰	8月上旬

○フィガロン散布の実施

マルチ被覆と併せ、フィガロンを散布する事により品質の向上を図ります。下の表を参考に実施しましょ。

1回目の散布時期は満開日より60日後、2回目は満開日より80日後となります。但し、収穫前日数は21日までとなっていますので、使用の際はご注意をお願いします。

※使用薬剤 フィガロン乳剤

品 種	1回目		2回目	
	散布時期	希釈倍数	散布時期	希釈倍数
極早生	7月上旬	2,000倍	7月下旬	2,000～3,000倍
肥のあけほの	7月上旬	2,000倍	7月下旬	2,000～3,000倍
早生	7月中旬	2,000倍	8月上旬	2,000～3,000倍
普通	7月中旬	2,000倍	8月上旬	2,000～3,000倍



土壌還元消毒について



花 卉
竹川 慶剛
上島営農指導センター
080-1729-1637



J Aあまくさ管内では、7月に入り主要品目であるカスミノソウ、トルコギキョウ等の出荷が終わり、片付けの後、次年産の準備が行われます。そこで今回はJ Aあまくさ管内でも取り入れられている土壌還元消毒について紹介します。

1. 効果と方法

還元消毒法は平成11年に道南農業試験場で開発された土壌消毒法です。この消毒は、ハウス土壌に米ぬか(又はふすま)を混和し、かん水することで土壌を還元化して土壌病害菌やセンチュウを死滅させる方法です。

特徴は、有毒ガスが発生しないこと、米ぬかを利用するため材料費が安い等です。

・還元消毒法の対象病害

病害菌名および病名	害虫名
フザリウム菌(萎凋病、イチゴ萎黄病、メロンつる割病など)	センチュウ類 (ネコブセンチュウ)
パーティシリュウム菌(半身萎凋病)	
ラルストニア菌(青枯れ病)	

2. 還元殺菌法の手順

(1)材料

- ・米ぬか 300kg / 10a ソイルクリーン(発酵菌) 3袋 / 10a
- ・被覆用透明マルチ(古ビニールでも可)
- ・かん水チューブ(散水チューブでも可)
- ・水 30 t 以上 / 100坪
- ・かん水用ポンプ及びその他

(2)作物残さの整理

ハウス内の作物残さを搬出し、マルチ、かん水チューブ等を撤去します。ハウスの被覆を張ったままにしておきます。

(3)地面の整地

耕起を行い畦を崩して地面を均平にします。

(4)米ぬか・ソイルクリーンの散布

米ぬか・ソイルクリーンを10a当りの必要量をムラのないよう施用します。

(5)耕起

米ぬか・ソイルクリーンを散布後、直ちに耕起します。その際、かん水ムラができないよう地面を均平に仕上げます。

(6)チューブの設置

ハウス全面にかん水が行き渡るようチューブを設置します。かん水チューブは60cm間隔に設置し散水チューブは能力に応じてハウスに1~4本を設置します。

(7)かん水の実施

100~500mmにかん水を行います(100坪ハウスの場合30~45t)。

(8)被覆

かん水終了後、透明マルチで地面を覆います。

(9)ハウスの密閉

ハウスを密閉し約20日間ほど放置します。この間にドブのような臭いがすれば消毒は成功です。

(10)消毒後処理

放置後、被覆用透明マルチ、チューブなどを撤去し数日間解放して終了です。



米ぬかの散布



被覆後の様子



終了時の様子



抑制力ボチャ栽培



野 菜
平田 優輝
下島営農指導センター
080-1729-1639

作型	8月			9月			10月			11月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
○←→○◎→◎←												
	播種	定植		誘引・交配	葉散					収穫		

1. 品種…くりゆたか

2. 圃場準備…排水対策を徹底し、畦幅は3~4mの高畦ベトを作る。

施肥量(kg)

10a当り	N	P	K
基肥	12~15	20~25	12~15
追肥	3	3	3
合計	15~18	23~28	15~18

3. 播種…8月上旬~中旬に直播又は、セルトレー・ポットに播種する。

播種量は10a当り1本仕立て1000粒、2本仕立て500粒必要。

4. 定植…1本仕立ては株間30cm、2本仕立ては株間70cmで、植穴処理を行い定植。活着するまでは灌水する。

5. 整枝…一本仕立て

主枝が60cm位伸びた頃わき芽を除き、風等で動かないように主枝を等間隔に杭や棒等で真直ぐ固定する。着果位置は、9~12節程度で、株元から70~100cmの長さに着果させる。

二本仕立て

本葉が4~6枚残り摘芯する。子づるが15~20cmほど伸長したら、良好なつるを2本残り他はかぎ取る。後の管理は1本仕立てに準ずる。

6. 交配…9月上旬~下旬にミツバチ等や雄花を利用した人工交配により必ず着果させる。

7. 追肥…着果確認後にソフトボール大の大きさになった頃、速効性肥料を施用する。中耕と除草を兼ねて蔓が1mほど伸びた時に待ち肥を行う。

8. 収穫…着果後45~50日前後で収穫。

9. 病害虫…アブラムシ、オンシツコナジラミ、ハモグリバエ、うどんこ病等が発生する為早めの防除を行う。